



戯曲

これはあなたのもの

ロアルド・ホフマン 著

川島慶子 訳

ロアルド・ホフマン コーネル大学教授

一九三七年ポーランドのズウォーチュフ（現ウクライナ）生まれ。

ナチスのユダヤ人迫害のため、幼少時に父を殺され、母と二人でウクライナ人の家にかくまわれる。

戦後の一九四九年に渡米。一九六五年よりコーネル大学の教員になる。専門は量子化学。化学反応におけるウッドワード・ホフマン則を明らかにし、一九八一年のノーベル化学賞を福井謙一と共に受賞。化学者であると同時に、詩人・劇作家としても活躍している。

『これはあなたのもの』は、自身の第二次世界大戦中の経験を元にして書かれたフィクションである。

これはあなたのもの

ロアルド・ホフマンの二幕物劇

この劇の中心人物は八十一歳のユダヤ人女性フリーダ・プレスナーと息子のエミールです。劇は、フリーダが成人となったエミールと妻、十代の孫たちと共に暮らす一九九二年のフィラデルフィアを舞台に行われます。第二次世界大戦中にフリーダがナチからのがれて、当時五歳のエミールと隠れ住んでいたウクライナの村の屋根裏にフラッシュバックする場面もあります。

多くのホロコースト生存者同様、フリーダは第二次世界大戦中（第一次世界大戦中にも）に自分が乗り切った、トラウマになるような事件のことについては話したがりません。住んでいた場所での、ウクライナ人によるユダヤ人虐殺計画とさまざまな裏切り行為のせいで、フリーダは、自分たちを助けてくれたウクライナ人のことを語ると同時に、ウクライナ人たちのことを「ひとごろし」と呼ぶのです。成人したエミールは当時のことはほとんど覚えていないと主張し、感傷的な係わりを避けています。

しかし、学校でホロコーストの課題に取り組んでいる孫娘の執拗な質問と、自分たちを匿ってくれたウクライナ人家族の一員の不意の訪問によって、プレスナー家の壊れやすい平和は覆されます。フリーダとエミールにとって辛い記憶の洪水の中で、長い間抑えてきた傷があらわれます。しかし、痛みだけではありません―屋根裏部屋の中での愛、屋根裏部屋で母と息子がやっていたゲームに関する優しい思い出もよみがえってきます。ついにふたりは思い出します。そして疑問が残ります。一九四三年も今も、憎しみと、互いを悪魔扱いする心の作用をどうやって切り抜ければいいのか。

『これはあなたのもの』は、一九九二年のフィラデルフィアと、一九四三―一九四四年の西ウクライナの村フリーヴニウが交差する中での生存と記憶の物語です。三十八の短いシーンの中で、ウクライナ人とユダヤ人の複雑な関係の物語が、思い出し許すための苦闘の物語が、浮かび上がってきます。自伝的な要素を含むこの戯曲で演じられる台詞は詩的（特に戦時中のシーン）であり、ユーモアのひらめきやパロディーさえも有しています。根本的な主題は、大いなる喪失といかに折り合いをつけるかという点であり、人を許すことへの道筋における、記憶と忘却の大切さ、そして悲惨な時代に、人間が善と悪との間で選ばねばならない選択が、そこには常に存在するという点についてなのです。

「これはあなたのもの」 登場人物（キャスト）

一九九二年、フィラデルフィア

フリーダ・プレスナー

八十一歳

エミール・プレスナー

五十五歳、内科医、フリーダの息子。家族と共にフリーダと同居している。

テイマー・メイブラム

四十九歳、心理学者、エミールの妻。

ヘザー・プレスナー

十七歳、プレスナー夫妻の娘。

ダニー・プレスナー

十三歳、プレスナー夫妻の息子。

アーラ・オレスコ

五十五歳、ウクライナからの訪問客、ミロスワフ・オレスコの娘。

一九四三年、ウクライナ、フリーヴニウ。当時はドイツ占領下のポーランド。現在は西ウクライナ。フリーヴニウはストロディの町から二十マイルの小村であり、プレスナー一家の人たちは、第二次世界大戦の前にそこに住んでいた。

フリーダ・プレスナー

三十二歳（老フリーダ役の女優が演じる）

エミール・プレスナー

六歳（ダニエル・プレスナー役の子役が演じる）

ミロスワフ・オレスコ

四十八歳、ウクライナの教師、自宅でプレスナー一家とアーネスト・ブランデス（アーニー伯父さん、

フリーダの兄）を匿っている。オレスコは台詞のない役柄。アーニーも、一九四三年に殺されたフリーダの夫のダニエルも、劇には登場しない。

この劇はフィラデルフィアとフリーヴニウを行き来します。フィラデルフィアのシーンのセッティングはフィラデルフィアのマウント・エアリー付近の小さな家の屋内です。大半の演技は、大きな台所、そしてフリーダの部屋で行われます。グリブニヴでのシーンは屋根裏のほのかな灯りのセッティングとなります。ウクライナの屋根裏とフィラデルフィアの部屋はひとつのセットとしてまとめられることもできます。劇の終盤には「クロスオーバー」が増え、一九九二年の登場人物が屋根裏に登場します。最後に二つのセットは統合されます。

演技の時代は、フィラデルフィアでの一九九二年の三ヶ月間、フリーヴニウでの一九四三年の一年余りにわたった時間です。一九四三年の時間的順序は重要ではありません。

劇中のスラッシュ／マークは、独白が次の台詞にかぶる部分につけています。

第一幕

シーニ 天国のどこか。ポーランド語 (niebo)、ウクライナ語 (nebo)、ヘブライ語 (shamayim)、英語 (heaven) でステージ上のサインが「天国」と表示されている。神と天使達の役はすべて劇中の登場人物達が演じる。神の外見はブルーチョコ・マルクスのように、シガーも何もかも。またはメイ・ウエスト。神の衣は、天使たちの衣よりも白く、より糊がきいている。天使のうちの何人かはかなり疲れている、もしくは(ラリっているように)ポーっとしているように見える。天使達はプラカード(または、彼らを識別できるようにガウンの背中に印字)を身に着けている。真実、平和、正義、愛。すべて、できるかぎり露骨な感じで演じられる。

耳障りな雑音。天使達の雑談。シンバルがジャーンと鳴る。

神 はい、はい。お静かに、天使たち。グレートフル・デッドのコンサートじゃあないのだから。

天使1 神様、ジョークを聞きたいですか？青い天使のジョークを。

神 もちろん。

天使1 青い天使が魚の頭を食べています、鯉です。赤い天使が、それを見ています。羨ましそうに。とうとう

赤い天使は言いました。「青い天使はすごく賢いって聞いたけれど、何故なの。」青い天使は答えます。

「それはね、僕たちは魚の頭をたべているからだよ、もちろん。僕、もうひとつ持ってるんだ。(新聞紙で包んだものをひとつ取りだす)これ、十八コペイカで君に売るよ、僕の赤い友達。」赤い天使は十八コペイカを払い、鯉の頭を手に入れて、それを食べます。その瞬間、魚商人が通りかかります「鯉一尾、五コペイカ」の看板と一緒に。赤い天使は、カンカンに怒って青い天使を非難します。「君は十八コペイカで魚の頭を僕に売ったけど、まるまる一匹が五コペイカで買えるじゃないか！」青い天使は言います。

「ほーら、君は、もう前より賢くなっているじゃないか。」
ブーツ…。いいね…。面白い、よね…。ねえ、教えて。それ、ユダヤのジョークなの？

神 やめ！やめ！（ゆっくりと）われわれはここに、ある実験のために集まっているのだよ（強調して）民主主義の実験に。

他の天使達 （ばらばらに）われわれは貴方様と共におりますよ、神様、ベイビー…。いいぞ、神様、続けて…。この方の話を聴きなさい…。

天使1 私たちは満場一致で民主主義を支持しております。（あたり一面に歓声があがる）

神 われわれが直面している問題は…（彼は言いよどみ、思い出せずに「えん」や「えーつ」と口にした）われわれが直面している問題って何だっけ？

天使1 われわれは人間、つまりマン、を創るべきだろうか？マンのMは大文字です、神様。つまりですね、貴方様が人を創るべきなのか、ということとして、貴方様は物作りのビジネスすべてに係っている方ですからね。そう、間違いなくその通り。（大声で）われわれは人間を創るべきだろうか？（脇を向いて、観客に話す）取るに足らない問題で民主主義を試してみるのはいい考えだ。つまり…私たちはケシについて話すことができる（手をたたく）。あの植物（手をたたく）、種がついている…ね。（再び大声で。尊大に）そう、男そして女。4人の意見をきかせてもらおう。

愛Ⅱ天使2 （彼女／彼のプラカードを見せながら。そうすれば、何かが一目瞭然なので）私は賛成です、創りましょう。男と女は愛の行為をなすでしょうから。

他の天使達 （声をそろえず）彼女、「彼」って言わなかったの、気付いた？うううう……ブロンディの慈悲深さ、いつもそうなのだ…愛、うえっ。関係ないね。

神 わかった、わかった。仕事にもどりなさい。（彼は真実に手で合図を送る）

真実Ⅱ天使1 （仰々しい態度で彼／彼女のプラカードを指さして）わたくし、真実の天使は反対に票を入れます。男は嘘の塊で

す。女も。人間は、ほんのちよつとむかついただけで、すぐ作り話をはじめます。ばれずにやりお
せるものであれば、人間は何だって試すでしょう。

(声をそろえず)だから、誰が本物?…人は話し相手にはいいもんだよ…みんながみんなダイヤモンドを生み出
す力があるわけじゃない……

静かに、しもべたちよ。同僚への敬意をしめそうじゃないか。

神
天使1

異議あり、神様。

神
何だね、我が子よ。

天使1

閣下、はばかりながら。愛、真実、美…こんなものは新プラトン主義のガラクタです。うえーっ。(口を覆う)
ちようど今、出てしまったのです。(神は、それはオーケーと頷く)昔の国では、われわれは「愛」「真実」「平和」
は持つていませんでした。もし、貴方様が宗教の純粹さを復活させないのであれば……

神

(遮って)黙りなさい。われわれは近代的でなければならぬ。続けて…(彼はシガーで残りの「天使たち(性)」に合
図を送る)君たちが好きだよ。話の長い弁護士たちのようではなく、手短かだからね。

正義II天使3

わたくし、正義の天使は、イエスです、人を創りだしましょう、人は善行を行いますから。

他の天使達

(声をそろえず)そう、われわれは善行のためにいる…だけど、そのために人間が必要なのかな、善行ってわれ
われの仕事じゃあないのか?…人間が善行?それって見込み薄…

平和II天使4

端的に。ダメです。人間は争いの塊です。人間は戦争を生み出します。人間は虐殺をするでしょう。

他の天使達

(バラバラに)それ、経済的だよね…平和の天使は正しい…。別のデザインを試す事はできますか?…

神

(彼は指で数える—2対2)なんてことだ…(彼は頭を抱え込む)みんなで物事を決めさせるところになるんだ。

(神は考え、そして厳然たる力で、真実の天使を掴み、それを地面に叩き付ける。煙、ガラスの碎け散る騒音。真実は何
千ものギザギザの破片に砕かれた。破片は束の間輝き、殻が各々の破片のまわりをさうと輝かせ、そして視界から消える)

(どよめき、大混乱。天使たちは面食らい、そして興奮した)

天使2

オーマイガッ！

神

はい？

天使3

この破片を見て。

天使4

何千もの……

天使3

ギザギザ。

天使2

輝いている。でも、待って……

天使3

破片の周りで何かが育っている。

天使4

破片を包んでいる。

天使2

殻だ。殻が破片の周りで育っている。

天使3

ああ、全能の神よ。何故、貴方様の象徴である真実の天使を壊されたのですか？

神

「真実 は 地面 から 生 える」と、かつて私は言った。(困惑している天使たちに)詩編八五の十一だよ、子供らよ。選挙は終わった。フィニート。これで2対1だ。地上に男と女を存在させよう。そして…かれらに真実を探させよう。

神

(神の言葉が浸透するシンバル、ドラム、ライト)

サタンにEメールを送りなさい。

(舞台係が、殻を集めるために突入する、観客の目の前で)

シーン終了

シーン2

一九九二年のプレスナー家、一九四三年のフリーヴニウの屋根裏に移る。フリーダとエミール。屋根裏には四

九歳若いフリーダとエミールがいる。ミロスワフ・オレスコの頭部と身体は現れるが、話すことはしない。

フリーダはベッドに横たわっているが楽な場所を見つけれないようだ。時折うめき声をあげている。

エミール 母さん、大丈夫？

フリーダ 骨が痛い。

エミール タイレノール持ってこようか？

フリーダ いいよ、役に立たないから。(少しの間、沈黙)あの時代にタイレノールなんてなかった。

(考えて)戦争中のこと？

フリーダ 一九四三年よ。私たちにはなんにも無かった。スーツケース半分。覚えてない？

エミール 僕は六歳だった。

フリーダ あそこに移った時は五歳で、出た時は六歳だった。父さんと一緒に移ったけど、そのあとで、奴らが父さんを

殺した。ああ。(うめき声をあげる)

エミール 母さん、休んで。

フリーダ なんにもなかった。お前のためのお肉もなかった。

エミール 僕は大丈夫だったよ。冷たいボルシチを覚えてる。

フリーダ 少しだけ骨が入っていたわね。

エミール あの時はそういうものだったんだよ。オレスコだって、自分の家族用には何もなかったんだろう。(間)あれは

おいしかったよ、母さん。まあ、今、母さんが作るボルシチの方が美味しいけどね。

フリーダ (息子の言葉を聴いておらず)なんにも無かった。兄さんのための薬も。

フリーダは寝返りを打つ。徐々に落ち着いてくる。エミールは母に毛布をかけ、ぼんぼんと手のひらで軽くたたき、静かに部屋を出る。

照明が暗くなり一九四三年の屋根裏に変わる。屋根裏で若い頃のフリーダが眠っている。後ろには、たぶん男の人のぼんやりとした姿があり、前には小さな男の子、幼いエミールがいる。

演技は静寂の中で行われる。秘密の扉が、背後からの強い光とともに開く。男の頭が現れる。フリーダは飛び上がる。エミールが身動きして立ち上がる。フリーダは待つてくれと男に合図を送り、エミールを平手でぼんぼんと軽く叩く。エミールは落ち着く。男はもう少し上がるが、屋根裏には入ってこない。手桶を持ち上げる。

フリーダは受け取る。(背後からの照明はフリーダにあたる)フリーダは明らかに酷い臭いのする別の手桶を男に手渡す。男は下に降りていく。フリーダは見送る。男は水がはいっていると思われる瓶をふたつ持って戻って来て、それから覆いがかかったポットを持ってくる。最後に新聞を持ってきて、何か言う。フリーダは微笑み、静かに語る。エミールが起きる。ハッチが閉じられる。

フリーダはエミールを寝かせ、毛布をかけて、ぼんぼんと叩き、横になる。

シーン終了

シーン3 一九九二年のプレスナー家、夕食後の一家。フリーダ、エミール、ティマー、ダニー、ヘザー。幾人かは紅茶を、その他は水を飲んでいいる。幾人かは座っており、幾人かは立っている。

フリーダは角砂糖にお茶を浸して飲むと試みているが、砂糖は溶けてしまう。しかめっ面をして他の角砂糖を取る。イライラしてポウルを押しやる。その他の家族は微笑みながらフリーダを見ている。

ダニー パパ、あの手紙のウクライナの切手、もらっていい？

エミール (驚いて)どの手紙だい？ダニー。

ダニー 書齋にあるやつ。

エミール どうやって手紙を見つけた？

テイマー 何の手紙？

ダニー 辞書が見つからなかったから、パパの辞書を借りようと思って(舞台外の書齋を指差して)入ったんだ。辞書の下に手紙があった。

ヘザー ウクライナの？

ダニー そう。切手に気が付いたんだ。女の子が印刷されてるやつ。ウクライナがもう一回独立してから出た最初の切手。なんかしらの価値があるんじゃないかなあ。

テイマー どういう手紙なの？エミール。

エミール (居心地悪く、席を立て)取ってくる。

(先にダニーが指し示した方向に立ち去る)

ヘザー おばあちゃん、ウクライナっておばあちゃんの出身地だよ？

フリーダ ひとつよろしども。

(みんなはフリーダを見るが、長い時間ではない。たぶんみんなは以前もそのセリフを聞いている)

テイマー ポーランドだと思ってたわ。

フリーダ 最初はオーストリア・ハンガリー二重帝国で、それからエミールが生まれた時分はポーランド。そしてロシアがぶんどって、今はウクライナ。させたいようにするがいい。

(エミールが手に手紙を持って戻ってくる)

エミール ほら。(手紙をテイマーに渡す)

テイマー

(手紙をひっくり返し、開封されているのを見る)読めないわ。

ヘザー

(手紙を受け取って)これ、ロシア語じゃない？

エミール

いいや、ウクライナ語だ。

テイマー

(手紙を再び受け取って)あて先は英語だわ。フリーダ宛よ。

エミール

(エミールを見て、何か言おうとする(「どうしてあなたは……」)が、気持ちを变える)いつ届いたの？エミール。

テイマー

(申し訳なきように)ええと、先週かな。

エミール

で、どうしてお母さんに渡さなかったの？

テイマー

母さんには読めないから。

フリーダ

あなたよりウクライナ語を読めるでしょう。ぜったい。

ダニー

(それまで静かに会話を聞いていて)エミールの言うとおりよ。私は目がよく見えない。

フリーダ

見えるよ、おばあちゃん。僕が冷蔵庫から棒つきアイスを取るのも見たもん。

テイマー

少しは見えるわ。いまましい、この黄斑は。『フィラデルフィア・インクワイラー』新聞は読めないよ。

ヘザー

あなたがお母さんに読んであげれば良かったじゃない、エミール。

エミール

ウクライナ語が読めるの？パパ。

フリーダ

ああ。わかるよ。だいたいはね。むかしウクライナ語を知っていた。ウクライナ人は僕らのまわりにいたし、

フリーダ

ひとごろしども。

エミール

でも、忘れてしまった。(読み始める)「シャノーヴナ パーニ フリージエ……」昔のフォーマルな文体だ。「親

フリーダ

愛なるフリーダ……」

エミール

エミール、誰からの？

エミール

ちよつと待って。(最後の署名を見るために手紙をめくる)アーラ・オレスコって書いている。

フリーダ オレスコ。フリーヴニウから。

ダニー その人を知っているの？おばあちゃん。

フリーダ 知っているかって？オレスコは一九四三年から四四年に私たちを匿ってくれた人たちよ。

エミール オレスコさんと奥さんは死んでしまった。これは娘さんからの手紙だよ。

ヘザー 匿ったって？どこに？

フリーダ 別にいいのよ。あの人たちにはお金を払っていたし。(顔をそむけて)疲れたわ。エミール、手紙に何が書いてい

たかは後で教えて……(片足を引きずる)

エミール そうするよ、母さん。

ヘザー おばあちゃんは、あのことについて絶対喋りたがらないのよね。私、学校で課題があるのよ、ホロスコースト

についての……

エミール 誰もおばあちゃんを責められない、ヘザー。父親も、夫も、妹も失ってしまったんだ。そっとしておいてあげ

よう。

シーン終了

シーン4 一九九二／一九四三年。子供のエミールと大人のエミール。子供のエミールは屋根裏に。大人のエミールの語りから始まり、子供のエミールにシフトし、再び大人のエミールに戻っていく。移行時には台詞は二人が一緒に語る。

大人のエミール 屋根裏で、僕は子供達が校舎から飛び出してくるのを待っていた。それから爪先立って窓に忍び寄った。

僕は子供達が遊ぶのを見ていた……

子供のエミール ……でも、あの子たちはいつも窓枠からいなくなってしまう。

あの木……(窓の)薄板……母さんはそう呼んでいた……のせいで僕には全部をみる事ができなかった

た。子供たちがパーヴェウの名前を呼んだのが聞こえた。ボールを蹴った男の子だ。でも、ボールがどこまで行ったのか見ることは出来なかった。僕は動いて、動いて、ひとつの薄板から別の薄板へと移って、外の世界を見ようとがんばった。(身振りだけそれを表す)

昨日、オレスコ先生の奥さんがかごを持って左に行くのを見た。奥さんが卵と一緒に戻ってくるのを見た。卵のおいがした。たぶん、二個もらえるだろう。一度、太ったガチョウを見た。囲いから逃げたんだ。虐殺から救われた、と思った。一度、アールをみた。素敵なベストを着ていた。どうしてお洒落していたんだろう？

僕には空が見えない。薄板は打ち付けられていて、動かすことができない。学校の裏の土地を見た。離れ家、いつも同じ場所。ただ、雪が泥に変わり、草に変わり、そして雪に変わっただけ。

大人のエミール

(ほとんど懐かしそうに)僕らが下の物置に移った時には、もう子供たちを見ることはできなかった。

シーン終了

シーン5 一九九二年のプレスナー家。翌日。夕食後の一家。フリーダ、エミール、ティマー、ダニー、ヘザー。会話の途中からシーンが始まる。

ティマー ウクライナ人は今、自分の国を持ったのね。

フリーダ 持てるでしょうよ。あいつらはドイツ人が私たちを殺すのを手伝ったんだから。

エミール そして、僕らを救ってくれた。一人はね。

ダニー 手紙を書いた人だね、そうでしょう？その人たちを知ってるの？おばあちゃん。

フリーダ もちろん、知ってるわ。小包を送っているもの。

日本のみなさまへ

川島慶子氏が私の戯曲『これはあなたのもの』を翻訳してくれたことに感謝しています。

この戯曲は化学に関するものではありません。これは悲惨な時代に、人々が善と悪との間で選ぶべき選択を扱った物語です。そしてこれは私自身の物語でもあります。いや、むしろ、傑出した一人の女性、私の母の物語だと言ったほうがいいかもしれません。母の強さこそが、第二次世界大戦の中で、母の兄と私とを救ってくれたのですから――母は長い人生を生きて、二〇〇五年に亡くなりました。そしてまた、これは良きウクライナの人たちの物語でもあるのです――残念ながら、当時の彼らの同胞の多くは、ひどいふるまいをしていたのですが。これら良きウクライナ人たちは、命の危険を冒して、或るユダヤ人の一家を救ってくれました。

その中に、たった六歳の男の子がいました。その子がこうして一人前の化学者になったのです。

この少年はまた、ロナルド・キーンによって日本文学に開眼させられた人間でもあります。同時に、いまだ化学の範疇にある、量子化学において解き明かされるビジョンを、福井謙一と共有している化学者でもあるのです。

ロナルド・ホフマン